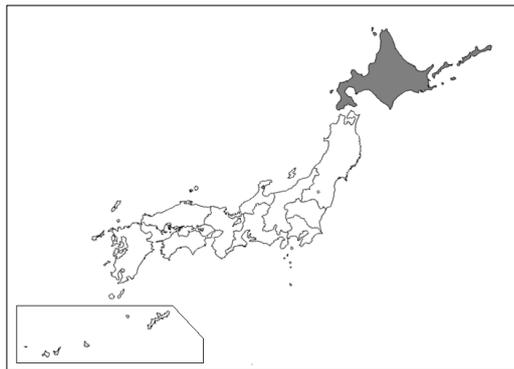


3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばい。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

前回からの主要変更点

	前回（令和5年9月）	今回（令和5年11月）	
雇用情勢	持ち直している	改善の動きがみられる	↑

1. 鉱工業生産等の動向

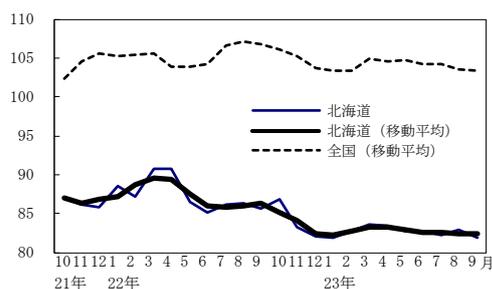
(1) 第一次産業は生乳生産は前年を下回り、主な水産物の生産額は前年を上回っている。

7－9月期には、生乳生産は総量では1,033,797t と前年同期比4.7%減となった。主な水産物の生産額（主要9港）は、ほっけ等が増加したため、前年同期比9.5%増となった。

(2) 鉱工業生産はおおむね横ばい。

7－9月期の鉱工業生産は、前期比0.7%減となった。月別にみると、7月は食料品が減少したこと等により前月比0.7%減、8月は電気機械が増加したこと等により同1.0%増、9月は電気機械が減少したこと等により同1.3%減となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4－6 月期	7－9 月期	7月	8月	9月
食料品	25.9	▲1.9	▲4.0	▲4.2	▲1.5	0.9
パルプ・紙	13.1	▲6.7	2.0	7.0	6.2	▲2.2
電気機械	9.1	10.2	4.4	▲1.8	7.5	▲9.1
鉄鋼	7.9	1.1	14.3	23.5	▲17.0	5.6
化学・石油石炭製品	7.6	▲1.3	7.6	▲5.8	7.4	1.0
鉱工業	100	0.2	▲0.7	▲0.7	1.0	▲1.3

(備考) 1. 2015年=100（全国は2020年=100）、季節調整値。
北海道の最新月は速報値。
2. 全国及び北海道の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7－9月期、9月は速報値。

(1) 北海道

(3) 観光は持ち直している。

7－9月期の来道者数は、航空機の利用者増などがあり、前年同期比 21.3%増（2019 年同期比 3.7%減）となった。月別では、7月は前年同月比 22.7%増（2019 年同月比 0.4%減）、8月は同 20.7%増（同 5.0%減）、9月は同 20.7%増（同 5.4%減）となった。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

2. 個人消費の動向

個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

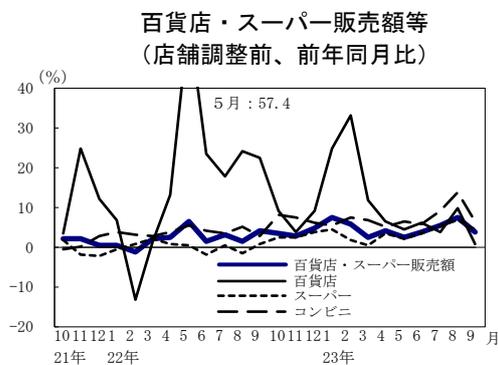
7－9月期は前期比 0.4%増となった。月別にみると、7月は前月比 0.5%増、8月は同 0.4%増、9月は同 1.5%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7－9月期は前年同期比 5.5%増となった。月別にみると、7月は前年同月比 5.4%増、8月は同 7.4%増、9月は同 3.8%増となった。

百貨店は、7－9月期は前年同期比 4.7%増となった。

スーパーは、7－9月期は同 5.7%増となった。



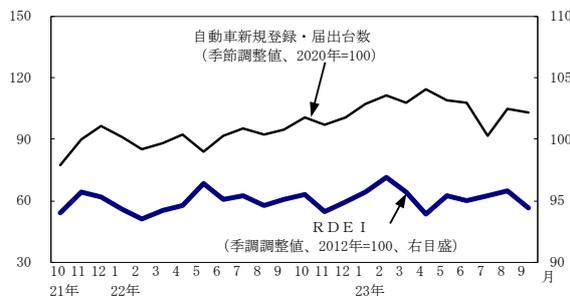
	2023年7－9月	2023年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.4	0.5	0.4	▲1.5
百貨店・スーパー(*2)	5.5	5.4	7.4	3.8
百貨店(*2)	4.7	3.9	9.8	0.9
スーパー(*2)	5.7	5.7	7.0	4.4
コンビニ(*2)	9.9	9.3	13.8	6.6
乗用車(*3)	4.7	▲2.9	11.4	7.1
(季節調整値)(*3)	▲9.5	▲14.5	13.8	▲1.7

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

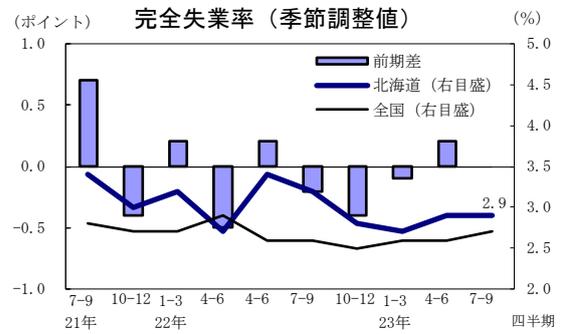
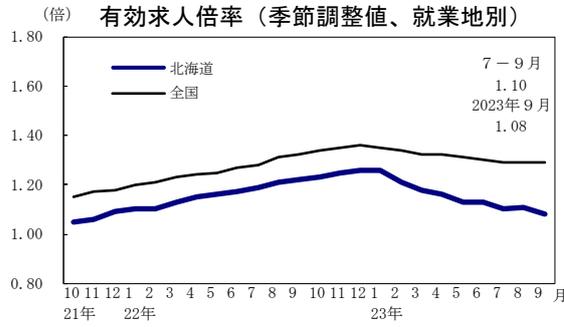
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率はこのところおおむね横ばいとなっており、前回の景気循環の平均的な水準にある（P10 参照）。一般労働者の定期給与は上昇している（P10 参照）。完全失業率は前期と同水準となっている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年10月調査）景気判断理由の概要

1. 北海道

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由	
現状	家計動向関連	□	・気温が高めに推移していること、食品の値上げが続いていることから、季節商材の動きが厳しい状況にある。ただし、気温の下がった日に、季節商材や節電に結び付くような商品がよく売れていたことから、これまでと同様に必要な物は買い、そうでない物は節約するという傾向が続いている（衣料品専門店）。	
		▲	・光熱費の負担が大きい北海道においては、気温が低くなるにつれて、客の生活防衛意識が高まり、節約志向がみられるようになってきている。菓子や雑貨など、価格優位性のない商品はコンビニエンスストアでは買わなくなっている（コンビニ）。	
		○	・夏季イベントの終了に伴って、客の外出意欲が低下することを危惧していたが、入出はそれほど減っておらず、堅調に推移している（タクシー運転手）。	
	企業動向関連	□	・販売量と今後の想定需要量が堅調に推移している（通信業）。	
		▲	・技術者不足で施工できない案件が増えており、設計案件が減少している（建設業）。	
		○	・仕入価格上昇分の価格転嫁が進み、利益を確保できているという声が多くなっている。人手不足に対応するための機械化など、省力化投資を行うという声も聞かれる（金融業）。	
	雇用関連	□	・毎日のように観光客を見掛けるようになってきているものの、各業界の求人動向や求人件数などについて、3か月前と大きな変化はみられない（求人情報誌製作会社）。	
		○	—	
	その他の特徴コメント			◎：観光目的の客の来店が当初の見込みよりも3割以上増加している。クルーズ船の利用者を始め、特に外国人観光客の個人利用が大幅に増加している（観光名所）。 ▲：繁忙期が終わったことで、例年と同様に来客数が減少している。特に紅葉が遅れ気味なことから、平日の客の動きが例年よりも落ち着いた。ただし、インバウンドは徐々に増加している（高級レストラン）。
	分野		判断	判断の理由
先行き	家計動向関連	□	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行して初めての年末年始となることから、海外旅行及び国内旅行の増加や帰省に伴う消費の拡大が見込まれるものの、物価高や燃料価格高騰の影響もあることから、景況感はそれほど変わらないまま推移する（百貨店）。	
		○	・今後については、本格的な冬の観光シーズンとなるため、インバウンドが数多く来道することが見込まれる。国内客も年末年始を中心に家族単位での観光が見込めるため、景気はやや良くなる。全国旅行支援が後押しになっているため、全国旅行支援が終了した後のことが心配ではあるが、足元の状況を見る限り、観光客の勢いは止まらないものとみられる（一般小売店〔土産〕）。	
		▲	・食料品を始めとした生活必需品について、価格の上昇又は高止まりが続いている。これからエネルギー価格の家計負担が増加する冬場を迎えることから、客の買い控えが強まることが見込まれる（スーパー）。	
企業動向関連	▲	・一定程度の売上はあるが、原材料価格やエネルギー価格、人件費の高騰もあって、利益の出にくい構造となっている。利益を確保できるように価格改定を進めると、受注量が一層減るとみられるため、厳しい状況にある（食料品製造業）。		
	□	・若干ではあるが、最近の受注量は増えている。ただし、今後については、建築物の計画見直しや延期などが相次いでいることから、状況が読めなくなっている（その他非製造業〔鋼材卸売〕）。		
雇用関連	□	・物価、資材価格、燃料価格、電気料金の高騰など、事業環境の悪化を招く要因は多く、新規求職者数と有効求職者数もほぼ横ばいで推移している。ただし、業況堅調な事業所からの新規求人数が引き続きコンスタントに公開されていることはプラスである。これらのことから、今後も景気は変わらない（職業安定所）。		
その他の特徴コメント			○：今後について、旅行需要の増加が見込めるため、売上も増えることになる（旅行代理店）。 □：商品が引き続き値上げ基調にあるため、客の購買意欲が現在よりも上向くとは考えにくい（住関連専門店）。	

(D I) 現状・先行き判断D I（北海道）の推移（季節調整値）

